

子ども用

伝道地便り

2018年 第4期 南アジア太平洋支部

第1話「神さまを見た」	タイ王国
第2話「病気になったお父さん」	タイ王国
第3話「信じられない！」	カンボジア
第4話「祈りがわかる猫」	フィリピン
第5話「海の支配者」	インドネシア
第6話「セブンスデーアドベンチストになった犬」	インドネシア



セブンスデー・アドベンチスト教団 伝道局 安息日学校部

伝道地便りの用い方のヒント

伝道地便りに収められているのは、現地からの一人ひとりの生きた経験です。安息日学校でこれを用いるときには、生き生きとご紹介していただきたいのです。そのためのヒントを、いくつか列挙いたします。

- 1) 前もって何度か目を通し、自信を持って読む。
- 2) 棒読みは避け、証されている大事な部分を明確にしておく。
- 3) 伝える時間はできるだけ短く。長くても5～7分。
- 4) 誰が、いつ、どこで、何を、なぜ、どうしたかが分かるようにする。
- 5) できたらカードに文字や絵を書くなどの視聴覚的工夫を。
- 6) 時には、スキット(寸劇)風にしてくださっても良いですね。

伝道地便りは、私たちが自分の証をするときの練習になります。主の愛の証のために、「心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして」紹介しましょう。

1. 神さまを見た

タイ王国



ラムベス・スリワッタナパファ 11 歳

2 歳のラムベスはタイ北部の街コラットで母親と一緒にベッドに入りました。

夜も遅く、ほとんど真夜中の事でしたが、その時の出来事はその後の人生を全く変えることになりました。

小さなラムベスが突然叫びました。「ママ、見て！神さまがそこにいるよ！教会に行くように言っているよ。」

母親は怖くなり、また混乱し、すぐに毛布の下に隠れました。「大丈夫だよ、ママ」とラムベスは言いました。

母親は毛布の中からちらっとのぞきました。「もう神さまはいなくなった？」母親は聞きました。「うん、もういったよ。」と答えました。次の日、ラムベスは母親に「教会に行こうよ」と言いました。

母親は驚きました。彼女の家族はタイに住むほとんどの人と同じように、クリスチャンではなかったからです。教会について話した事もなければ、一度も訪れたことがありませんでした。彼女は誰かがラムベスに神さまについて教えたのか、それともラムベスがテレビで聞いたの

かと考えました。

「まだこの子はほんの子どもだわ。」と彼女は思いました。「きっとそのうち忘れるでしょう。」

そして、ラムベスにこう言いました。「来年の誕生日にまた思い出させて？そうしたらあなたを教会に連れて行くわ。」

ラムベスはその後教会について口にすることはありませんでした。しかし、彼は神さまについて聞きたがりました。彼は母親に聖書のお話しを読むようせがみました。母親は息子を喜ばせたかったので、子供用の聖書の本をたくさん買い、彼に毎日読み始めました。その物語は彼女を驚かせました。彼女はイエスが水の上を歩いた話を読み、またヤイロの 12 歳の娘が死からよみがえらされた話を読みました。彼女はまたイエスが水をぶどうジュースに変えた話を読み、ペテロが捕まえた魚の口からコインが出てきた話を読みました。

「これは本当の話なのかしら？」母親は思いました。「こんな事がありえるのかしら？」ラムベスはそれらの話が本当だとなんの疑いも抱きませんでした。彼は母親が読むお話しを聞くのが大好きで、そのお話を信じました。

1 年が経ち、ラムベスは彼の三回目の誕生日を大きなケーキでお祝いしました。テーブルを囲んで家族でケーキを食べているとラムベスは母親の方をむきました。

「ママ」彼は言いました。「教会に行く時だよ。」

母親は教会の事を彼が覚えていたことに驚きました、しかしたくさんその前の一年に神さまについてのお話を読んだことを思いだし、そして約束を守りたいと思いました。

「わかったわ、行きましょう」と言いました。

一週間後、ラムベスはお母さんとおじさんと共に教会にいました。彼はとても教会が好きになりました。

「それまで一度も教会を見たことがありませんでした。」彼は言います。「とっても素晴らしいものでした。」

彼はまた次の週も教会に連れていくようお願いしました、そして母親とおじさんとラムベスで毎週出席するようになりました。それから彼のお父さんも彼らに加わりました。やがて、母親、父親そしておじさんは自分の心をイエス様にささげる決心をしました。

現在、ラムベスは 11 歳で、コラットにあるアドベンチストインターナショナルミッションスクールの 5 年生です。彼の母親は彼に英語を勉強して欲しかったので、幼稚園から彼をその学校にいました。

学校での朝礼拝のとき、ラムベスは自分がどのようにしてクリスチャンになったかというお話を 150 名の生徒の前で話しました。

「これは僕がどのようにクリスチャンになったかというお話です。」そうやってラムベスはお話を始めました。

お祈りについて初めて学んだのはアドベンチストスクールでした。学校では、大好きなマタイ 7:7 の聖句を勉強しました。そこにはイエス様が「求めよ、そうすれば与えられるであろう、探せ、そうすれば見つけるだろう。門をたたけ、そうすればあけてもらえるだろう。」と言っています。「僕はこの聖句が好きです。なぜなら、これは僕が求めれば神さまが与えてくださるという約束があるからです。」とラムベスは言います。

2 歳の夜に起こった時の事を聞くと、ラムベスは自分のおでこにしわをよせて彼の記憶はぼんやりしていると言いました。何か「まぶしい」ものを部屋で見て、柔らかい声が彼の心に「教会へ行きなさい」と言ったのを覚えていると言います。

その言葉は彼を困らせました。その時、彼は教会という言葉を一度も聞いた事がなかった

ので、どのような意味なのかわからなかったからです。

彼の母親は、アドベンチストインターナショナルミッションスクールでのインタビューの間ラムベスの側に座り、彼の話しが本当のことだと言ってくれました。母親は神さまが自分の家族を導くためにラムベスをお使いになったと信じています。

「ラムベスを通して私は聖書について知りました。彼にお話を読みました。彼は私達を神さまに導いてくれたのです。」

今期の 13 回献金の一部はアドベンチストインターナショナルミッションスクールに、もっと多くの生徒を迎えるための新キャンパス建築の費用に用いられます。お一人おひとりの献金を感謝いたします。

下記のリンクから、ラムベスを見てみましょう。
bit.ly/Lambeth-Thailand

下記のリンクから、このお話の写真を見ることができます。

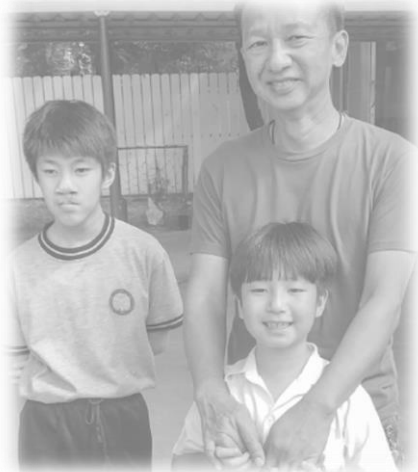
Bit.ly/th-mq

宣教メモ

- タイ王国のナクホンラチャシマーを地図で探しましょう。コラットはその町の愛称としてよく使われる名前です。

2. 病気になったお父さん

タイ王国



ジェレミー・パンプッティポン 8歳

お父さんは英語を学ばせるため、二人の息子をアドベンチストインターナショナルミッションスクールに通わせていました。

学校に入って2か月がたったころ、6歳の息子ジェレミーがクリスマスの特別プログラムに来て欲しいとお父さんをお願いしはじめました。ジェレミーはお父さん、お母さんに見てもらうため、歌を歌ったり、踊ったり、セリフをおぼえたりしてたくさん練習をしました。

「僕の演技を見に来てね！」ピョンピョン跳ねながら一生懸命お願いしました。

お父さんは見に行く事にしました。

しかし、そのプログラムの前日、お父さんは焼いた豚肉を口にして体調が悪くなってしまいました。その夜、ほとんどの時間をトイレで過ごさなければいけませんでした。

次の日の朝、お母さんが言いました。「病院に行ってちょうだい、あなたを失いたくないの」

「病院には行くけど、今夜の演技が終わってからにするよ」とお父さんは言いました。

その夜、会場のホールに行った時、プログラムに出席すると決めた事が間違っていた事に気

づきました。気絶寸前で、何もプログラムの音が耳に入らず倒れるのではないかと怖くなりました。そして、プログラムがようやく終わったと思った時、「夕食を用意しています。ぜひご参加ください」というアナウンスが流れました。

お父さんは何も食べたくありませんでした。その代わりにジュースとぶどうを手に取り、どうにかお腹が良くなるよう願いました。そしてお母さんに車で待っているよ、と伝えました。しばらくの間、お父さんは車の後ろの席で休んでいましたが、ジュースとぶどうが口にもどってくるのを感じ、車から出て道でお腹の中のものをもどしました。奥さんに電話しましたが、電話がつながりませんでした。

その瞬間、お父さんは気を失いました。地面に激しく倒れ、顔を車の近くのコンクリートに打ち付けてしまったのです。

お父さんが気づくと、先生が彼の横に立っていました。鼻とおでこから血がたくさん出ていました。彼は弱々しく「お願いします、妻に電話してください」とお願いしました。

少ししてお母さんはお父さんと2人の息子を車の中に乗せ、急いで病院に向かいました。

子どもたちはお父さんの傷を見てショックを受けました。ジェレミーは木を彫って作った神さまにタイ語でお祈りし始めました。しかし、突然気が変わり英語で主の祈りを祈り始めました。

「天にましますわれらの父よ、願わくば御名をあがめさせたまえ」毎日アドベンチストインターナショナルミッションスクールで学校が始まる時に子ども達が歌う歌から言葉を思い出して祈りました。「み国がきますように、みこころが天でなされるように地でもなされますように。われらの日用の糧を今日も与えたま

え。われらに罪を犯すものを我らがゆるすごとく、我らの罪をも許したまえ。我らを試みにあわせず悪より救い出したまえ。国と力と栄とは限りなく汝のものなればなり、アーメン」

主の祈りを祈り終わると、ジェレミーはタイ語でも祈りました。「イエス様、お父さんを取りあげないで下さい、お父さんは良い人です。どうかお父さんを助け、守って下さい。」

それからジェレミーはまた主の祈りを祈り、自分の言葉でイエス様にお祈りしました。病院に着くまでずっとお祈りしました。お父さんは痛みの中にいましたが、小さな息子が一生懸命祈っている事にとっても驚きました。

その時のことを思い出して、「私はとても嬉しく思いました。」とお父さんは言います。「自分の息子が私に何かすることができるなんて知りませんでした。彼は私のために祈ってくれたのです！」

お父さんはまた、どうやって学校が自分の息子にたった2か月で心から祈りを捧げる事を教えたのだらうかと思いました。

「私の息子は一生けんめい祈ってくれました。」彼は言います。

病院では医者がレントゲンを取り、お父さんが頬骨をけがしているという診断をしました。手術の必要はありませんでした。

病院での検査の間、ジェレミーはお父さんの手を握り、祈りました。お家に帰ってからもジェレミーはお父さんの為に祈りました。10歳のお兄さんも、お父さんのために祈りました。

お父さんは今はもう元気になりましたが、息子たちは祈る事をやめていません。毎晩、良く休めるように、そして悪い夢を見ないようにお祈りします。

道で困っている人を見ると、ジェレミーはその人のためにその場で祈ります。「誰かのために祈ると、その人が良い方に向かうと彼は信じているのです。」とお父さんは言います。

ときどき、お父さんも息子たちと一緒に天の神様にお祈りします。

「もし、私の息子たちがキリストを信じたい

と言ったら支えたいと思います。いつか彼らが信仰をもってクリスチャンになってもかまいません。それでも彼らは私の息子です。」

今期の13回献金の一部はアドベンチストインターナショナルミッションスクールに、もっと多くの生徒を迎えるための新キャンパス建築の費用に用いられます。お一人おひとりの献金を感謝いたします。

下記のリンクから、ジェレミー、お父さん、そしてお兄さんを見てみましょう。

bit.ly/Jeremy-Thailand

下記のリンクから、このお話の写真を見ることができます。

Bit.ly/th-mq

宣教メモ

- ・タイ王国のナコンラチャシマーを地図で探しましょう。コラットはその町の愛称としてよく使われる名前です。

3. 信じられない!

カンボジア



コン・ソクホム 28 歳

鋭い痛みがマリナのお腹を襲い、痛みが倍増しました。

次の日彼女の腹痛は更にひどくなりました。カンボジアのオーモニーという村にある自宅で、16 歳の少女は痛みのあまり涙を流しながら泣いていました。

マリナのお父さんはバイクの後ろに彼女とお母さんを乗せ、7 km 程離れたカンボジアで 2 番目に大きい街、バタンバンにある病院まで運転していきました。

医者は超音波で検査をし、痛みの原因を見つけました。最初の結果が不安だった為、医者は再検査をすることにしました。それらの検査の結果を手し、真剣な表情で医者はお父さんのもとにきました。

「あなたの娘さんには腫瘍があります。」と言いました。「摘出する必要があります。」医者はいくつかの書類を書き、マリナの両親に 3 日以内に他の必要な書類と 300 ドルを手術の為に持ってくるよう伝えました。

家に帰り、マリナのお父さんはお母さん、マリナ、そして他の 3 人の子ども達を特別な祈りを捧げるために集めて祈りました。

家族は 2 日目も祈りました。3 日目に、病院

に行く前にもう一度、家族で集まり祈りました。

「天のお父さま、私の一番下の娘が病気になり、手術をする必要があります。」お父さんが祈りました。「あなたもご存じの通り、お医者さんが何を見つけたのかわかりません。また、私たちには手術のためのお金がありません。そのお金を借りなければいけません。」

父親が祈ると、家の屋根を雨が強く打ち始めました。マリナは厳しい痛みの中にあり、泣いていました。他の家族もみんな、彼女と共に泣いていました。

「神さま、あなたは何でも出来る神様です。」父親がいました。「どうか、私の娘を癒してください。」父親が祈り終わると、携帯に医者から電話がありました。

「なぜ娘さんを連れてこないのですか？」外科医は尋ねました。「もう手術の時間です。」父親は雨の中バイクを運転して病院に行くのが出来ない事を説明しました。マリナの家族には車がなかったからです。

「雨がやみ次第、すぐに来てください。」と医者は言いました。

家族は再びひざまずいておいのりしました。

「主よ、あなたは私たちの問題をご存知です。」父親が言いました。「激しい雨がふっていて、病院まで行く事が出来ません。娘に手術が必要じゃなくなるよう助けて下さい。」

20 分後、雨がやみました。マリナがバイクにまたがると、体調が良くなった事を感じ、病院に行かなくてもいいと思うと言いました。

父親は病院にどうしても行くように言いました。マリナの姉と二人の兄弟は家で祈り続けることを約束しました。

病院について、父親は持ってくるよう言われていた書類を忘れたことに気づきました。医者はその書類なしには手術をする事ができない

ので、超音波で検査をする事にしました。

「信じられない」その結果を見ながら医者は言いました。「全部正常になってる」

もう一度検査をしました。結果は同じでした。腫瘍はありませんでした。3回目の検査が行われました。遂に、外科医は信じられないといった様子で「あなたに手術は必要ありません。お家に帰りなさい。」と言いました。

マリナは大喜びしました？

「きっとこうなると思ったわ！」と叫びました。「イエス様を信じていたから、イエス様が私に手術が必要なくなるようにして下さいと信じていたの！」

母親は家に電話をし、そのよい知らせを伝えました。

「これこそ神様の力だわ！」彼女は言いました。

泣きながら祈っていた3人の兄弟はお互いの手を取りあって、飛び上がって喜びました。

「私たちの妹を癒して下さいった神さまに感謝しました」その時17歳だったマリナのお姉さんのソクホムはいいます。

その奇跡は家に大きな変化を起こしました。彼女と3人の兄弟は、以前はイエス様に心を捧げる事にあまり興味がありませんでしたが、聖書の勉強を始め、バプテスマを受けました。

4人全員の子ども達が今は忠実なアドベンチストです。マリナは健康な27歳のお母さんで、ソクホムは28歳のバイブルワーカーで、大学一年生です。栄養学を勉強しており、バタムバンに開店予定のセブンスデーアドベンチストのベジタリアンレストランで働く予定です。

今期の13回献金の一部はレストランがオープンする予定のコミュニティセンター建設の為に使われます。皆様の献金を感謝いたします。

マリナの発音はマリーナです（ナを強調します）。オーモニーの発音はオーモニーです（二ーを強調）。ソホムの発音はソホムです（ソホを強調）。

下記のリンクから、ソホムを見てみましょう。

[Bit.ly/Kong-Sokhom](https://bit.ly/Kong-Sokhom)

下記のリンクから、このお話の写真を見ることができます。

[Bit.ly/th-mq](https://bit.ly/th-mq)

宣教メモ

- カンボジアのバタムバンを地図で探しましょう。
- カンボジアでは名字を名前より先に書きます。（日本と同じ順番）

4. 祈りがわかる猫

フィリピン



ジェイシンス・アダップ 55 歳

5 年生のジェイシンスは家で飼っている猫が変わっていることに気付きました。

ジェイシンスが両親と 9 人の兄と姉と一緒にテーブルに座って食べる時にはいつも、お母さんが猫のために餌を入れた皿を床に置きました。その餌はフィリピンのお家で家族がご飯を食べている間、猫がテーブルに上がって来ないようにするためのものでした。

しかしある日、ジェイシンスは猫が自分のお皿から食べていないのに気付きました。猫は餌を見た後、家族を見上げて待っているようでした。

ジェイシンスのお父さんが食事のお祈りを捧げました。

「親愛なる神さま、今から食べるこの食事を感謝いたします。あなたに仕えるために栄養を与え、力づけてください。アーメン」

お父さんの祈りが終わって、ジェイシンスが猫の方を見るとご飯を食べはじめていました。「見て！」ジェイシンスが言いました。「僕たちはお祈りがわかる猫を飼っているよ！」

お父さんとお母さんはお祈りをし終わってから猫が食べ始めた事に驚きました。

次のごはんの時、お母さんはお米と魚をお皿にのせて床に置きました。猫はお皿の方に向かってきて、餌を見ました、そして家族の方を見上げていました。

お父さんがご飯のお祈りをしました。ジェイシンスはお父さんがお祈りする間片目を開けてみていました。お父さんが「アーメン」というと、その猫は頭をお皿に近づけ食べ始めました。

ジェイシンスの兄と姉は猫がお祈りを待っているとは信じられませんでした。ですから、彼らは実験をする事にしました。数時間後に、家族がテーブルで食べていない時、ご飯をお皿にいれて猫の前に置いてみました。

猫は食べ物を見て、そして子ども達を見ました。猫は食べませんでした。

ジェイシンスは沈黙を破り、「アーメン！」と叫びました。

その途端、猫は食べ始めました。

その猫はジェイシンスに箴言 22 章 6 節について、大切なレッスンを教えてくれました。ソロモン王が「子はその行く道に従って教えよ、そうすれば年老いても、それを離れることがない。」と言った場所です。猫はとても小さい時に家族の一員になりました。ですから、お父さん、お母さん、そして子ども達がご飯を食べる前に順番でお祈りするのを見ながら育ちました。そして、猫が大きくなった時、食べる前にお祈りを待つようになったのでした。

ジェイシンスの両親もまたソロモン王の教えに従いました。彼らは注意深くジェイシンスと 9 人の兄弟姉妹に、心を尽くして神様を愛し、ご飯を含むすべての事を感謝するように訓練したのでした。

そのおかげで、ジェイシンスと彼の兄弟姉妹は神さまに忠実な大人になりました。ジェイシンスは結婚し、二人の息子が与えられ、そして

南アフリカとジンバブエで宣教師として奉仕しました。今日、彼は生まれ故郷のフィリピンにおいて、パキスタンからインドネシアまでの14か国にわたるアドベンチストの働きを監督する、南アジア支部の会計係として働いています。

ジェイシンスは食事の前に彼の猫がお祈りを待っていたことを嬉しく思っています。「子はその行く道に従って教えよ、そうすれば年老いても、それを離れることがない。若者を歩むべき道の始めに教育せよ。年老いてもそこからそれることがないであろう」と彼は言います。今期の13回献金はフィリピンのレイクセブ(地帯名)に子どもと大人に読み書きを教える為の学校を開設するために用いられます。そこで読み書きを学ぶ人々が聖書を通して神さまの事も知るようお祈り下さい。あなたの献金を感謝いたします。

地図でフィリピンを探してみましょう。

ジェイシンスの発音は**ジェイ**シンスです。

子ども達に神さまが自分のペットの行動を通してご自分の業をされたのを見た事があるか聞いてみましょう。

下記のリンクから、このお話の写真を見ることができます。

[Bit.ly/fb-mq](https://bit.ly/fb-mq)

宣教メモ

- 1905 年、オーストラリアン教団総理 G.A.アーウィン是世界総会に行く途中でフィリピンを訪れ、マニラに文書伝道局を作り、島々で文書伝道を始めるよう勧めました。この勧めに従って、オーストラリアから R.A.カルドウェルがその年の暮れまでに赴任し、スペイン語で健康と宗教についての本を沢山販売しました。
- 1915 年には、初めてフィリピンの人々がアドベンチストのメッセージを現地の言葉のタガログ語で、フィリピン人のビビアナ・パニスによって聞きました。結果として、1916 年はじめには 104 人もの人々が洗礼を受け、116 名の教会員によって教会が組織されました。

5. 海の支配者

インドネシア



アーミ・アルジュナ・パランデン 24 歳

若い学生宣教師アーミはインドネシアにあるブル島に着いたあと重い気持ちになりました。

彼はセブンスデーアドベンチストが誰もいない村で一年間働く事になったのでした。しかし、彼はどうやってその仕事を始めればいいのかよくわかりませんでした。

ある晩、2 人の村人が彼を漁に誘い、彼は喜んで誘いにのりました。

彼らは空を見て、天候が良い事を確認しました。そして、たくさんの魚が取れることを願っていました。

3 人は小さな木製のボートに乗り、海へ出ました。

ボートが海岸から遠く離れた時、天気が急激に変わりました。猛烈な風が吹き始めました。雨が降り始めました。大きな波がボートに向かって打ち付けます。アーミと彼の 2 人の友達は大慌てで船から水を汲みだしましたが、それでもだめだったため、漁の道具を海へ投げ出しました。船が沈んでしまわないように少しでもボートを軽くしようとしてしました。でも、何の役にも立ちません。ついにアーミの友達が、このボートは一人しか助けられる程の強さしかなく、

二人は海に飛び込まなければいけないと言いました。アーミは泳げませんでしたが、彼は「僕は宣教師だから僕が最初に降りるよ」と言いました。

友達の一人が「ダメだ！僕たちは罪人だから君はボートに残れ」、もう一人の友達は「もし、君が生き残ったら君は沢山の人達を救うことができるよ」と言いました。

アーミは二人の友達にビックリしました。彼らは結婚もしていて、子どももいるのに、アーミが生き残るために自分たちが死んでもかまわないということです。

しかし、アーミは彼らに死んでほしくはありませんでした。絶望が彼を襲いました。彼は宣教師として失格だと感じました。

波が激しくボートに当たっている時、突然アーミは小さな声が「祈れ」と言うのを感じました。

「なんていい考えだ！」アーミは思いました。そして、ひざまずいてお祈りしたいと思い、ロープをつかみ、無理矢理ボートに自分をくくりつけました。目を閉じて、深く息を吸い、彼は叫びました。

「主よ、私たちを助けてください！私たちを救ってください、なぜなら私たちはあなたが私たちを救う事ができると知っているからです！」

力の限り叫んで、またその祈りを繰り返しました。「主よ、私たちを助けてください！私たちを救ってください、なぜなら私たちはあなたが私たちを救う事ができると知っているからです！」

アーミはそのお祈りをもう一度、そしてまた一度と 3 分間繰り返しました。そして、「アーメン」と言い、目を開けました。

その瞬間、嵐がやみました。風はやみ、海は

穏やかでした。

黒い雲はどこかに行き、そして、まばゆい星が輝いていました。

アーミは衝撃をうけ、そして叫びました。「主よ、本当にありがとうございます！」

彼の二人の友達は一瞬、船が岸へと向かうにつれ、喜びの涙を流しました。戻る途中、彼らは嵐の最中に投げ捨てた網を見つけ、それを拾い上げました。すると、網にあふれるほどの魚がいっぱい入っていました。

船が岸に着くと、村人たちが彼らに声をかけに急いできました。彼らはアーミ達が船で漁に行ったのを見て、あの嵐の中で船が沈んでしまったと思っていたと言います。驚きながら、彼らは何が起こったのか聞きました。アーミの友達は熱心な祈りが答えられたことについて語りました。村人たちはその奇跡の魚を買い求めました。二人の漁師が今までに獲った魚で一番多い量でした。

その夜以来、人々は嵐についての話を聞くためアーミのところに集まりました。彼らはイエス様について多くの質問をしました。そして、4人がバプテスマを受けました。

今日、3年が経って、その村にはアドベンチスト教会ができ、20人の人たちが毎安息日そこで礼拝をしています。

アーミは現在 24 歳で、牧師になるため勉強しています。

「いつまでもあの海でおこった奇跡を覚えていると思います」と彼は言います。

インドネシアのマルク島にある 3 番目に大きい島ブルムを地図で探しましょう。

アーミの発音はアーミです。

子ども達に「もし二人の友達と船に乗っていて、二人が海に飛び込まなくてはならなかったら、誰が？ どうして？」と理由を聞いてみましょう。

下記のリンクから、アーミを見てみましょう。

bit.ly/Armi-Indonesia

下記のリンクから、このお話の写真を見ることができます。

Bit.ly/fb-mq

宣教メモ

・インドネシアでのアドベンチストの働きは、シンガポールで別の教会の宣教師として働いていた R.W.ムンソンがスマトラ島の西海岸のパダンに教区を設置し、1900 年に始まりました。最初の改宗者の一人が中国人説教者のテイ・ホン・シアンで、以前彼はシンガポールの孤児院で孤児として過ごしていました。1903 年に東インド諸島はオーストラレーシア教区の宣教地になっています。

6. セブンスデーアドベンチストになった犬

インドネシア



ゲイリー・ロバート 40 歳

宣教パイロットのゲイリー・ロバートがインドネシア領パプアのヘキチの村、スーミンカ村に着いた時、村人全員が滑走路に走ってきて、歌ったり踊ったりしていました。

山に滑走路を造るため、手で木を切り倒し平らな場所にするのに、村人たちは 10 年かかりました。

ゲイリーの宣教飛行機が、そこに初めて着陸した飛行機でした。これは本当に大きな出来事でした。

しかしゲイリーが飛行機から出ると集まった人々はだんだん静かになりました。歌と踊りがやみました。

「これはセブンスデーアドベンチストの飛行機ですか？」と一人の男性が尋ねました。村人は飛行機の尾翼にあった三天使のマークを見た事があったのでした。

ゲイリーは驚きました。彼はこれまで徒歩でしか行く方法がなかったスーミンカの村の人達がアドベンチスト教会について知っているなんて思ってもみなかったからです。村人はやがてゲイリーに彼らの多くが安息日を守って

いることを話しました。

その理由がセブンスデーアドベンチストの犬がいるからと言いました。

セブンスデーアドベンチストの犬？

数年前のこと、別の村にいたアドベンチストのモーセという牧師と信徒牧師ダリウスが同じ夜に同じ夢を見た事から始まりました。

翌朝、一人が「昨晚の夢を見たんだ。」と言いました。もう一人も「僕もだ。でも君に話したくないな。」実は二人とも一人の天使から夢の中で「スーミンカへ行きなさい。」と言われたからでした。

村に着くと、彼らはこれから一週間毎晩、村から離れた場所にあるポーチ（突き出たところ）から伝道講演会をすると発表しました。しかし、講演会の第一日目、モーセ牧師はマラリアにかかってしまいました。彼の具合はひどくなり、村人たちは、死ぬだろうと言っていました。

「でももし、彼が治ったら集会で講演を聞きます」と村人たちは言いました。

一日中モーセ牧師は病気でした。しかし、夕方 5 時になると急に気分が良くなりました。シャワーをあびて講演をしました。しかしまた体調がとても悪くなりました。これが 1 週間毎日繰り返されました。5 時まで病気で、5 時になると元気になり、シャワーをあびて講演をして、ベッドに戻るのです。

講演会で、人々に安息日について話し、豚などの汚れた食べ物について注意することを話しました。イノシシはパプアの山々では人気の食材でした。

一週間が終わり、モーセ牧師はバプテスマの決心を呼びかけました。しかし、誰も前に出てくることはありませんでした。モーセ牧師とデ

リウスは深く落ち込みながら自分たちの村へ帰っていきました。彼らはなぜこのような結果になるのに、あのような夢を見たのか不思議に思いました。

スーミンカでは普通の生活が戻ってきました、土曜日の朝、村で一番の猟犬ドルビーが起き上がり、道を歩き始めました。飼い主と他の村人たちはイノシシか、何かがいるに違いないと思い、着いていく事にしました。犬は宣教師が座り、講演したポーチに行きました。村人たちは不思議に思いました。

次の土曜日も、同じ事が再び起こりました。その犬は起き上がり、ポーチに向かって歩き、そこで座ったのです。

その犬がしたのはそれだけではありませんでした。村人たちはその犬が豚肉を食べなくなった事に気付きました。イノシシやその他の汚れた動物を食べなくなったのです。

村人たちはお互いに言い合いました。

「ドルビーはセブンスデーアドベンチストになったんだ。彼が安息日に礼拝するなら、我々も礼拝しよう！」

そして、多くの村人たちが安息日を守り始めました。そして、汚れた食べ物を食べるのをやめました。

ミッションパイロットのゲイリーはその話を聞いた時、とても興奮しました、そしてモーセ牧師に電話をしました。モーセ牧師はデリウス牧師を村へと送りバプテスマへの備えをさせました。

今日、村人の半数である 200 人の大人と子ども達が安息日に礼拝をし、その内 21 人がバプテスマを受けました。

犬のドルビーはずっと汚れた食べ物を食べないでいます。村人たちはとても健康な犬ですと言っています。

下記のリンクから、ゲイリーを見てみましょう。

[Bit.ly/Gary-Roberts](https://bit.ly/Gary-Roberts)

13 回安息日の前に

- 12 月 29 日の第 13 回安息日に 13 回献金を持ってくるお知らせを保護者に送りましょう。
- 伝道のための献金は神様のみ言葉を世界中に広めるための贈り物であって、13 回献金の 4 分の 1 は直接、南アジア太平洋支部の 7 つのプロジェクトの為に送られる事を皆さんに今一度思い出させて下さい。